

「She Keeps Swimming」

—初稿—

2026/1/17

雨森 れに

〈人物表〉

八嶋やしま
莉里りり

(25)

釣りが趣味

高橋たかはし
慧けい

(25)

お金持ち

1. 海（昼）

穏やかな昼下がり。小型クルーザーが停泊している。

2. クルーザー・甲板（昼）

釣りをする八嶋莉里（25）、浮かない顔で釣り糸を見つめる。

3. クルーザー・リビング（昼）

高橋慧（25）、窓から莉里を見る。
ため息をつき、冷蔵庫を開ける。
二人分の飲み物を取り出し、甲板へ。

4. クルーザー・甲板（昼）

慧、飲み物を差し出す。

慧 「これ、好きだったでしょ」

莉里 「ありがとう」

莉里、申し訳なきように微笑む。

慧、自分の釣り竿を準備し始める。

ちらちらと莉里の様子を伺いながら。

慧 「もう少ししたら別のところ移動しようか」

莉里、目を細め、頷く。

莉里の背後で雨雲が発生している。

慧、雲に気づかないフリ。

5. 海（夕）

空を黒い雲が覆い、激しい雨風が降っている。

大きい波の間にクルーザーが見え隠れする。

6. クルーザー・リビング（夕）

単音のブザーが鳴り響く。

立っていられないほどの揺れ。

莉里、壁の手すりにしがみつく。

慧は莉里を守ろうと覆い被さる。

だが、莉里はそれを突き飛ばす。

慧、バランスを崩して転倒。気を失う。
莉里、我に返る。

手を伸ばし、慧を引き寄せる。

7. 海（夜）

夕刻とは打って変わって風いだ海。

8. クルーザー・運転席（夜）

リビングの一角。ディスプレイは割れ、メーター類も異常を示している。

9. クルーザー・リビング（夜）

荒れた室内。

莉里、二人分の救命ジャケットと薬箱を置く。

慧の頭の傷を確認して、息を吐く。

莉里 「私のせいだね」

慧 「びっくりしただけでしょ。なんも悪くない」

莉里 「いつも私は悪くないって言う」

慧 「だって大体俺が原因だし」

慧、へらつと笑う。

慧 「今回も俺のせいになったようなもんだよ」

莉里 「違う。私たち、お互いにやり直したくて来たんじゃない」

慧 「でも俺がもっと——」

莉里 「そういうのが嫌なんだってば」

莉里、険しい表情。

莉里 「俺のせいって言われるたびに、そうさせた私を責めてる

みたいに聞こえる」

慧 「そんなこと」

莉里 「私が釣り好きだから？ 慧の運転に甘えたから？ それとも別れたがったから？ 全部私のせいなんでしょ？」

慧が莉里を抱きしめる。

莉里、体を硬直させる。

慧 「大丈夫。明日の朝か昼には救助が来るよ」

莉里、目をぎゅっと瞑る。

慧 「俺のオヤジの心配性、知ってるでしょ。すぐ捜索隊が出るはず。だから、大丈夫」

莉里、頷く。

慧、莉里の背中をぽんぽんと叩く。

慧 「深呼吸、深呼吸」

窓ガラスに室内の様子が映っており、慧が莉里の髪の毛の匂いを嗅いでいる。

莉里、深呼吸していて、それに気づいていない。

× × ×

ざっと片づけられた室内。

片づけを進める莉里、あくびをする。

10. クルザー・キッチン（夜）

リビングにある簡易的な設備。

莉里、インスタントコーヒーを淹れる。

慧、トイレから出てきて、

慧 「めずらし」

莉里 「救助きたのに寝てて気づかないとか最悪だもん」

慧 「たしかに。寝たままヘリで運ばれたりとかね」

莉里 「さすがに起きるわ」

ふたり、笑い合う。

莉里、慧の分のコーヒーも淹れはじめる。

慧 「そうだ。栄養剤いる？ そのほうが起きてられるでしょ」

慧、ポケットから薬ケースを取り出す。

莉里 「慧の最終兵器じゃん」

慧 「徹夜ならコレ一択。というか、元気であるならコレ一択。

莉里が飲みな」

慧、莉里の手に錠剤を乗せる。

莉里 「ありがと」

莉里、錠剤を飲み、微笑む。

11. クルザー・リビング（夜）

テーブルの上に冷め切ったコーヒーが二つ。

莉里と慧、寄り添って座っている。

莉里、眠気で朦朧としている。

慧 「来週はどこ行く？」

莉里 「どこでも」

慧 「復縁記念だからいいホテルとか取ろうか」

莉里 「お金、使いすぎ」

慧 「だめ？」

莉里 「将来のためにさ」

慧 「それって、結婚式とか子供とか？」

莉里が頷く。

慧、にやあと笑う。

慧 「莉里、俺のところに戻ってきてくれるんだね」

莉里、寝息を立てている。

慧 「嬉しい。めっちゃ嬉しいよ」

慧、莉里を撫でまわす。

徐々にエスカレートし、愛撫に変わっていく。

莉里、弱い抵抗を見せる。

莉里 「何してんの。嫌……」

慧、莉里の耳元で荒い息。

慧 「嫌じゃないでしょ。今子供ができて、俺、嬉しいよ」

莉里、驚愕の表情。

状況を理解し、

莉里 「嫌ア！」

慧を突き飛ばす。

テーブルが倒れ、カップが割れる。

莉里、ふらつきながら立ち上がる。

慧、床に倒れているが、笑顔は絶やさない。

慧 「莉里い」

莉里が乱れた服装のまま甲板逃げようとする。

慧、莉里の足を掴む。

莉里から小さな悲鳴が漏れる。

慧 「やり直しに来たんですよ。仲良くしようよ」

莉里、慧を蹴る。

だが、慧は離れない。

莉里 「無理。絶対無理！」

慧 「は？ ふぎけんなよ！ この計画にいくらかかっていると

思うんだよ！」

莉里 「そうやって恩着せがましいところが無理なんだって！」

慧の顔が怒りに歪む。

莉里 「私はお前の獲物じゃねえんだよ！」

莉里、更に蹴りを入れる。

慧の腕が離れる。

莉里、走って甲板へ。

12. クルザー・甲板（夜）

莉里、船首側に逃げる。

慧が追いかけてくる。

莉里は追い込まれ、揉み合いになる。

頬に一筋の鮮血。

慧の手には割れたカップの破片が握られている。

慧 「俺のものになれよ」

莉里、首を振る。

ヘリコプターの音。

ふたりが頭上を見上げる。

ライトがふたりを照らす。

莉里、海上にも救助船があるのを認める。

莉里 「死んでもヤダ」

莉里は体の重心の海へと向ける。

ふたりは海へ落下する。

慧の叫び声。

13. 海（夜）

慧 「莉里、助けて！」

慧、泳げず溺れかけている。

莉里、クロールで救助船へ。

迷いは一切なく、まっすぐに進んでいく。